平成 28 年度　福岡市共働提案事業の進捗状況資料

福岡城・鴻臚館を活かした観光都市戦略事業について

福岡城・鴻臚館を活かした観光都市戦略事業実行委員会

（1）共働のきっかけ・必要性

●「共働」の必要性

以下の課題を解決するためには、市民目線と発想、民間マインドの事業展開、幅広い分野からの参加とコンセンサスが必要であるが、NPO 単独では実現困難であり、官民共働という手法によって効果的な事業実施が可能となる。

●事業提案の理由

NPO の 10 年間の活動経験から、次の課題が顕在化した。

①市民目線の案内表示がなく回遊しにくい

②市民が誇りに思うランドマークになっていない

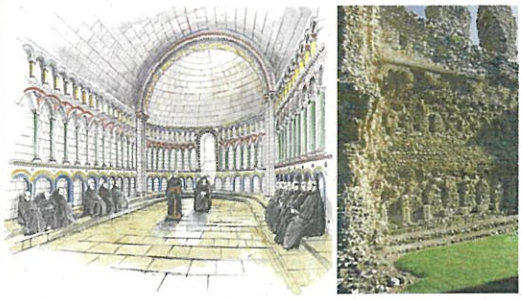
③外国人がその価値に気付かずに素通りする

④若い世代の興味、関心が低い

⑤市の関係窓口が多岐にわたる

●市担当課の考え

上記の課題を解決することは、歴史・文化を活かした観光を促進するうえでも必要であり、セントラルパーク構想や福岡城跡整備計画等にとっても有益であると考える。



イギリスの例

壁しかない遺跡だが、親しみやすい絵を用いて、一般の外国人観光客にも往時の様子が理解できるよう工夫されている。

（2）事業目的

福岡市が経済・産業だけでなく観光においても九州・アジアの中心として発展していくために、国指定史跡である福岡城、鴻臚館を活かした観光都市戦略、ランドマーク作りによって「おもてなし都市・福岡」の実現を目指す

（3）事業目標

<u>①　市民協力・市民目線によって市民が誇れるランドマークをつくる</u>

市民目線を生かしたランドマークづくりを進め、「連れて行く所がない」を返上する。

<u>②　国際観光客が感激する観光地としての魅力アップを行う</u>

外国人観光客が理解し感激できる案内標識を作成、イベント開催、ガイドのスキルアップと多言語対応で素通りする外国人観光客を引き留める。日本人も見直す（黒船効果）

<u>③　若者・次世代を主役に、郷土歴史遺産を学び伝承する習慣をつくる</u>

小、中学生から大学生まで若者が、鴻臚館、福岡城を中心とした郷土の歴史を学び伝承し、「こんなすごいものを知らなかった」をなくす

（4）事業内容

① 市民協力・市民目線によって市民が誇れるランドマークをつくる

a)「市民フォーラム」を開催し、市民の啓発、参加のきっかけとなる場をつくる。

【第1回市民フォーラム】（共働提案事業として通算3回目）

・日　時：平成28年10月1日　13:30～16:30
・場　所：福岡市役所15階大講堂
・テーマ：「源氏物語と鴻臚館」
・講　師：東京学芸大学教育学部教授　　川添　房江氏
　　産業能率大学経営学部准教授　皆川　雅樹氏
・内　容：源氏物語に表れる唐物文化の窓口となった鴻臚館の果たした役割や重要性を通して、今後の活用方法を考える。
・参加者：241人が聴講。うち女性57%、初参加65%

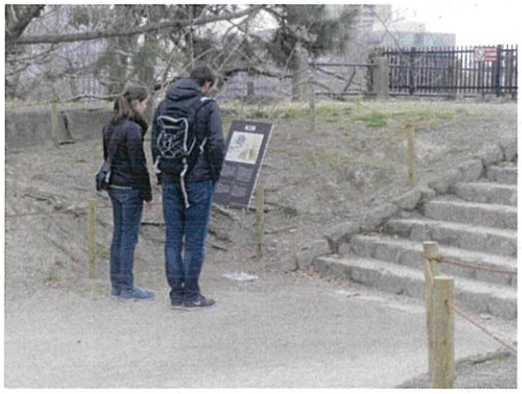
第2回市民フォーラム

【第2回市民フォーラム】

・日　時：平成29年1月28日　13:30～16:30
・場　所：福岡市役所15階大講堂
・テーマ：秀吉・官兵衛が描いた大坂・福岡「二都物語」
・講　師：大阪文化財研究所学芸員　　積山　　洋氏
　　九州大学文学部教授　　佐伯　弘次氏
・内　容：鴻臚館が消えた500年後、まったく同じ場所に福岡城が建てられたのはなぜか。同じ関係にある難波京、大坂城と比較しながら重層性のある大型史跡を観光都市のシンボルとする方法を考える。
・参加者：255人が聴講。うち男性71%、初参加56%

b)福岡城、鴻臚館の「建物」「人」「生活」を感じる市民目線のリアルな絵を作画、27、28年度で計32枚が完成している。絵に付ける分かりやすい解説文を作成するとともに英語、中国語、韓国語に翻訳。翻訳に当たってはバイリンガルだけでなく、バイカルチャで各国の一般の人が理解できる内容とする。

29年の福岡城さくらまつりで、4か国語の解説文を織り込んだ市民目線の案内板を4か所に仮建植し、好評だった。



c)ガイドのスキルアップ

テーマ、ストーリーのある福岡城ガイドを行い、より魅力ある観光ガイドのあり方を探る。

・石垣ものがたり（6/26、9/25）　34 人参加
・櫓ものがたり　（7/24、10/23）　51 人参加
・水ものがたり　（8/28、11/27）　52 人参加
・発掘・修復現場をめぐる（2/12、2/26、3/12）　54 人参加

d)「福岡城整備基金」への協力。イベント開催の際のチラシ等に案内を入れるなど市民への協力を呼びかける。

② 国際観光客が感激する観光地としての魅力アップを行う

a)外国人参加の福岡城イベント「Attack The Fukuoka Castle」の開催。

外国人と日本人が英語でコミュニケーションしながら、福岡城に関するクイズを解き、ゴールの天守台を目指す。第 2 回では、九州大教材開発センターの協力で出題解答をタブレットで行うアプリを開発、分かりやすいと大変好評だった。

【第 1 回】7 月 24 日　17:00～19:30　68 人参加（うち外国人 37 人）
【第 2 回】3 月 5 日　13:00～14:00　43 人参加（うち外国人 31 人）

③ 若者・次世代を主役に、郷土歴史遺産を学び伝承する習慣をつくる

a)九州産業大学との連携。学生が企画運営する福岡城内イベントを実施。

・名　称：「五感で楽しむ　和ろうぃん～in Fukuoka Castle」
・日　時：平成 28 年 10 月 15～16 日
・場　所：福岡城跡一帯
・内　容：参勤パレード（仮装行列）、似顔絵城主・写真城主（福岡城復興基金に寄付した方に似顔絵、写真をプレゼント）、和ろぅいん屋敷（多聞櫓でのお化け屋敷）など
・参加者：287 人　同日に開催された福岡市花と緑のイベント「グリッピキャンペーン」と相互 PR 協力を行った。

b)九州大学附属図書館教材開発センターとの連携

1)「①市民目線のランドマークづくり」で作成した鴻臚館の絵を使った鴻臚館案内「動く鴻臚館にようこそ」を作成。鴻臚館の建物復元 3D に室川氏作成の絵をはめ込み、登場人物が動いて往時の雰囲気が理解できるようにした。URL は以下の通り。中高校生に興味を持ってもらえる教材として期待されている。

http://contsrv.i.kyushu-u.ac.jp/web/webgl/korokan/

2)学生による鴻臚館 VR アプリの開発授業。鴻臚館を題材に自由な発想で、見て楽しい 3D アプリを開発させる。学生らは 12 月 7 日に鴻臚館跡資料館で、3D アプリのダウンロードテストと鴻臚館についてのフィールドワークを行った。

3)他の WG（ワーキンググループ）との協力。3 月 5 日開催の「Attack The Fukuoka Castle」向けに、出題、解答アプリを開発。ゲームの分かりやすさと魅力向上に寄与した。

c)市内中学校での鴻臚館、古代官道に関する授業

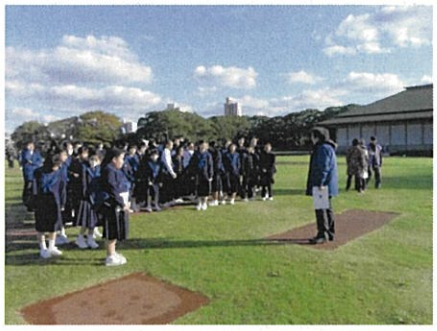
福岡市教育委員会、福岡市文化財部大規模史跡整備推進課と連携し、市内 2 中学校で鴻臚館と古代官道についての授業を実施した。

①11 月 24 日　舞鶴中

1 年生 65 人が鴻臚館跡資料館で、鴻臚館の成り立ちや役割、「1300 年前の高速道路」といわれる古代官道がなぜ必要だったか、などについて石井幸孝理事長、菅波正人・福岡市鴻臚館跡整備係長から説明を聞き、現地を見学した。

②12 月 2 日　野間中

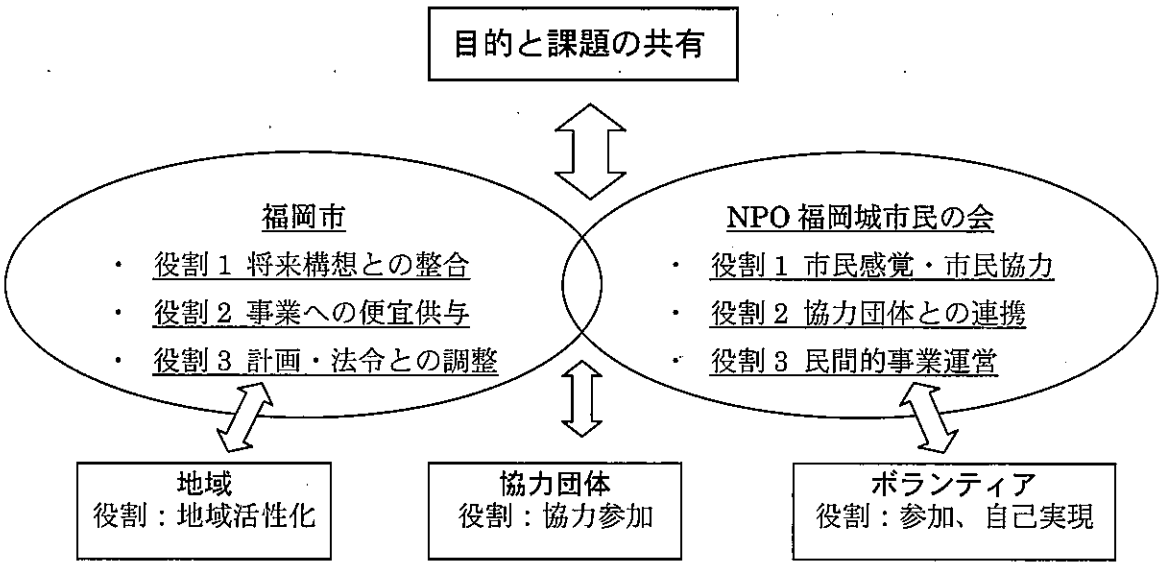
同校体育館に 1 年生 165 人が出席、石井理事長は官道がなぜ必要だったかを説明、宮井善朗・大規模史跡整備推進課長が鴻臚館の役割や、野間中近くに残る官道の痕跡について説明した。



d)市民参加の清掃活動「福岡城クリーンアップ作戦」

5 月 15 日実施、80 人が参加。

（5）ＮＰＯと市の役割分担



共働事業のメリット・成果として以下の点が挙げられる

●単独では難しい事業が速度感をもって実現できる。

NPO 法人が事業の中心的役割を果たすことによって 4 月 1 日からの活動、予算執行が可能で、年度を通した活動がスピーディーかつ確実にできる。28 年度中に実施できた 9 事業のうち 3 イベントが上期に開催、他の事業も通年活動できた。

●共働の広がり

日本語文化学校が主体となって開催した「Attack The Fukuoka Castle」に九州大学附属図書館教材開発センターが協力したり、九州産業大学の「和ろうぃん」に福岡市緑化推進キャンペーンの PR 協力が実現したりするなど、個々のイベントにとどまらず枠を超えた相互協力が実現した。

（6）担当者の声・市民の声

●担当者の声

事業ごとに設けられたワーキンググループを定期的に開催した。福岡市の関係部署と各事業を中心となって運営する協力団体（元気日本語文化学校、九州大学、九州産業大学など）、それぞれが専門分野のエキスパートであり、課題や改善策について自由に意見交換することで事業内容の向上はもちろん、担当者、関係者の意識向上、業務の枠を超えた連携が芽生えている。

●参加者や受益者，関係者の声など

・鴻臚館を今までと違った切り口で取り組まれ、面白かった。これからも興味を引くテーマでフォーラムを計画してほしい（第１回市民フォーラム　70 代女性）

・城下町の町割りなど、昔の町名がなくなり親しみやすさが失われたのかも知れない。自分の町の成り立ちをしっかり子どもたちにも教えていくことが必要。自分たちの心の持ち方が大切と思った。（第 2 回市民フォーラム　60 代女性）

・「1300 年前の高速道路」という題名を見てどんな話なのかワクワクした。そして、ここから近い野間Ｂ遺跡があることは知っていたけれど、官道の跡だとは思わなかった岩瀬駅が野間中の近くにあることを初めて知った。将来、岩瀬駅を見つけたいと思った（野間中官道授業　１組男子生徒）

・ゲームが楽しかった理由（Attack The Fukuoka Castle でのアンケートより）
ゲーム内容が面白かったから（とても興奮したゲームだった、城内数カ所を回ってゲームをしたのが楽しかった、タブレットを使用したこと）
チームメイトとの協力（コミュニケーションが楽しかった、お城でゲームをしながらチームメイトの事を知った事、日本人との出会い）
福岡城についての歴史を学べた事

（7）２９年度への展開

29 年度は鴻臚館発掘 30 周年にあたることから、これまでに開発したコンテンツを様々な場面で活用する。単発のイベント開催にとどまらず、継続的反復的に行うことによって、常時にぎわいを創出できるよう活動する。

<u>①　市民協力・市民目線によって市民が誇れるランドマークをつくる</u>

a)市民フォーラムの開催

９月と１月を予定。９月は、鴻臚館と福岡城という二つの大型史跡が重層的に存在する福岡城跡を福岡市の活性化に生かすために何が必要かを考えるとともに、これまでの活動実績を報告する。

b)「市民目線の案内板」仮建植

室川氏の絵画と４か国語解説文を生かした「案内板」を作成、イベント開催に合わせて掲示し認知度を高めることで本格採用への道筋をつくる。

c)ストーリーツアーのさらなる充実

テーマを決めてストーリー性を持たせたガイドは、人気が高い。特に福岡城だけでなく城下町までを対象にしたガイドは注目度が高く、さらにブラッシュアップする。

（7）２９年度への展開（続き）

d)一夜城イベントの開催

福岡 JC が 8 月 11、12 日に福岡城跡において開催予定の「一夜城イベント」に協力、にぎわい創出イベントとして定着できるよう努力する。

② 国際観光客が感激する観光地としての魅力アップを行う

a)外国人向け観光ガイドの試行

「市民目線の案内板作り」で作成した英、中、韓国語解説文を材料にして、元気日本語文化学校などの協力を得て外国人向けガイドを試行する。フランス、ドイツ語など他の言語についても英語版を元にネイティブの留学生が翻訳することで対応できるのではないか。

b)「Attack The Fukuoka Castle」の観光ツール化

引き続き年 2 回開催を目指すとともに、機能アップを図り、ゲーム運営をマニュアル化して団体観光客向けのイベントとして活用する。

③ 若者・次世代を主役に、郷土歴史遺産を学び伝承する習慣をつくる

a)九州産業大学の福岡城イベントの充実

10～11 月をメドに実施する。「昔遊び」をテーマとする方向で検討中。

土日 2 日間だけでなく、一定期間開催するために学生だけでなく、ボランティアの協力を得て運営できないかを検討する。元気日本語文化学校などとも協力し、外国人向けのイベントとしても活用する。

b)九州大学の VR 開発

・鴻臚館発掘 30 周年に合わせ、教材開発センターの岡田義広教授による「動く鴻臚館へようこそ」を一般公開する。
・教材開発センターが作成したゲーム型英単語学習ソフトを利用して、福岡城について学ぶゲームアプリ開発を検討する。
・金子晃介助教指導のスマホ向け鴻臚館 VR アプリを公開し、訪れる人に楽しんでもらう。

c)中学校官道授業

・福岡市西部など他地域の中学校でも授業を行う。
・福岡城近くの当仁小でふるさと学習を行う。